



【ウェビナー】2026年版世界貿易投資報告

講演1

高リスク常態化の下で

拡大と構造転換が進む世界貿易

日本貿易振興機構（ジェトロ）
調査部 国際経済課 吾郷 伊都子

2026年8月5日



日本貿易振興機構（ジェトロ） 調査部 国際経済課 課長代理

吾郷 伊都子

あごう いつこ

- 2006年、日本貿易振興機構に入構。
- 経済分析部、海外調査部、公益社団法人日本経済研究センター出向（2011～2012年）、海外調査部国際経済課、ジェトロ・クアラルンプール事務所（2021～2025年）を経て、2025年12月から現職。マレーシアでは、同国の経済情報の調査・情報発信、ビジネス環境改善などを担当。
- 共著『メイド・イン・チャイナへの欧米流対抗策』（ジェトロ）、共著『FTAガイドブック2014』（ジェトロ）、編著『FTAの基礎と実践-賢く活用するための手引き-』（白水社）など。
- 担当業務：貿易・直接投資、通商政策・WTO・FTA/EPAなど

2026年版「ジェトロ世界貿易投資報告」の構成

第Ⅰ章 世界と日本の貿易

第1節 世界の財貿易

- (1) 世界の国・地域別貿易
- (2) 世界の商品別貿易
- (3) 下振れリスクとAIの台頭が交錯する世界貿易

第2節 世界のサービス・デジタル貿易

- (1) 世界のサービス貿易動向
- (2) 世界のデジタル貿易（EC）

第3節 日本の貿易

- (1) 日本の財貿易
- (2) 日本のサービス貿易
- (3) 日本企業の貿易動向

[コラム I] 日本の農林水産物・食品輸出

[コラム II] 世界を引きつける日本発コンテンツ、さらなる成長の先へ

- ・ 2025年～2026年3月頃までの世界や主要国・地域の貿易動向
- ・ デジタル関連財や脱炭素関連（EV、重要鉱物）などの商品別貿易
- ・ 米関税や中東紛争の影響、AI関連財貿易をトピックとしてハイライト

- ・ 世界のサービス貿易動向や収支、長期のマトリクスを分析
- ・ 世界のEC市場規模、中国企業の台頭、デミニスルール撤廃の影響
- ・ AIがもたらすEC市場の変革

- ・ 日本と主要国・地域間、商品別の貿易動向、日本製品の強みに焦点
- ・ デジタル赤字が進む日本のサービス収支の実態
- ・ 日本企業の輸出に対する見方をジェトロアンケートを基に分析

第Ⅱ章 世界と日本の直接投資と産業動向

第1節 世界の直接投資

第2節 主要国・地域の産業動向

[コラム Ⅲ] データセンターの電力事情

[コラム Ⅳ] 東欧で進む光学・光通信技術の宇宙での活用

第3節 日本の直接投資と企業動向

第Ⅲ章 世界の通商秩序を巡る動向

第1節 世界の通商政策の最新動向

第2節 多国間貿易体制の現状と課題

第3節 ルールと価値に基づく国際経済秩序の広がり



ジェトロウェブサイト上で、過去のレポートも含め全文ご覧いただけます。
▼詳しくは以下QRコード／URLより▼



<https://www.jetro.go.jp/world/gtir/>

講演1：本日の内容

1. 変容する世界貿易、リスクが招く構造転換
2. サービス貿易、デジタル貿易にもAI変革の波
3. ものづくりの上流分野に日本の強み
4. まとめ

1 | 中東情勢は貿易の下押し要因に、不確実性は続く

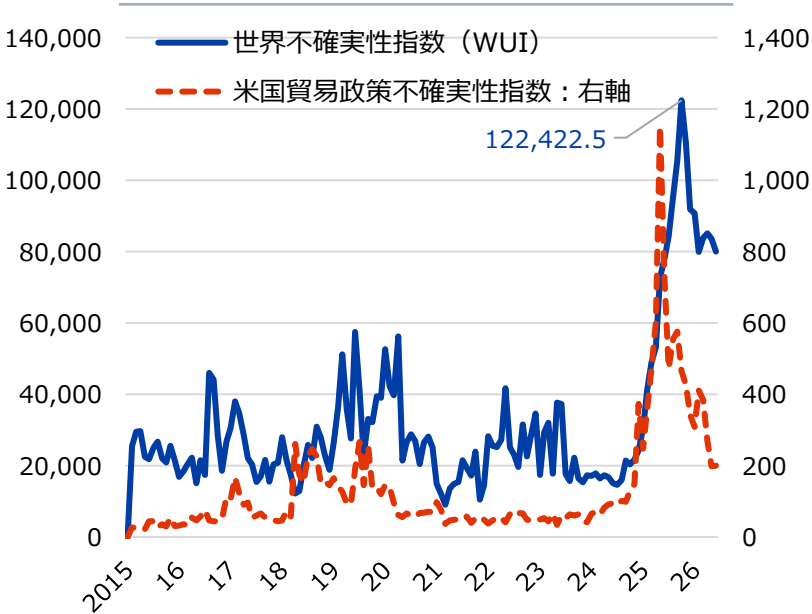
- 主要国際機関は、2026年2月末に発生した中東での衝突を受け、**2026年の世界経済見通しを軒並み下方修正**。IMFは、紛争が長期化下場合の最も深刻なシナリオ下では、世界の経済成長率が2%を下回る可能性も。
- 世界不確実性指数（WUI）は、2025年9月に過去最高水準を更新した後、高止まりが続く。

主要国際機関による世界経済見通し

発表機関	2025年 (推計値)		2026年 (予測値)		2027年 (予測値)		発表時期 (前回)
	伸び率	前回差	伸び率	前回差	伸び率	前回差	
IMF	3.5	0.1	3.0	△0.1	3.4	0.2	2026年7月 (2026年4月)
国連	3.0	0.2	2.5	△0.2	2.8	△0.1	2026年5月 (2026年1月)
OECD	3.4	0.1	2.8	△0.1	3.1	0.1	2026年6月 (2026年3月)
世界銀行	2.9	0.1	2.5	△0.1	2.8	0.1	2026年6月 (2026年1月)

(注) 国際機関による伸び率の差は、集計の際の構成国・地域のウエート決定方法の違いなどによる。
(出所) IMF "World Economic Outlook, July 2026"、国連 "World Economic Situation and Prospects, 2026 Mid-Year Update"、OECD "Economic Outlook, June 2026"、World Bank "Global Economic Prospects, June 2026"から作成

世界経済および米国貿易政策の不確実性指数
(2015年～2026年5月)

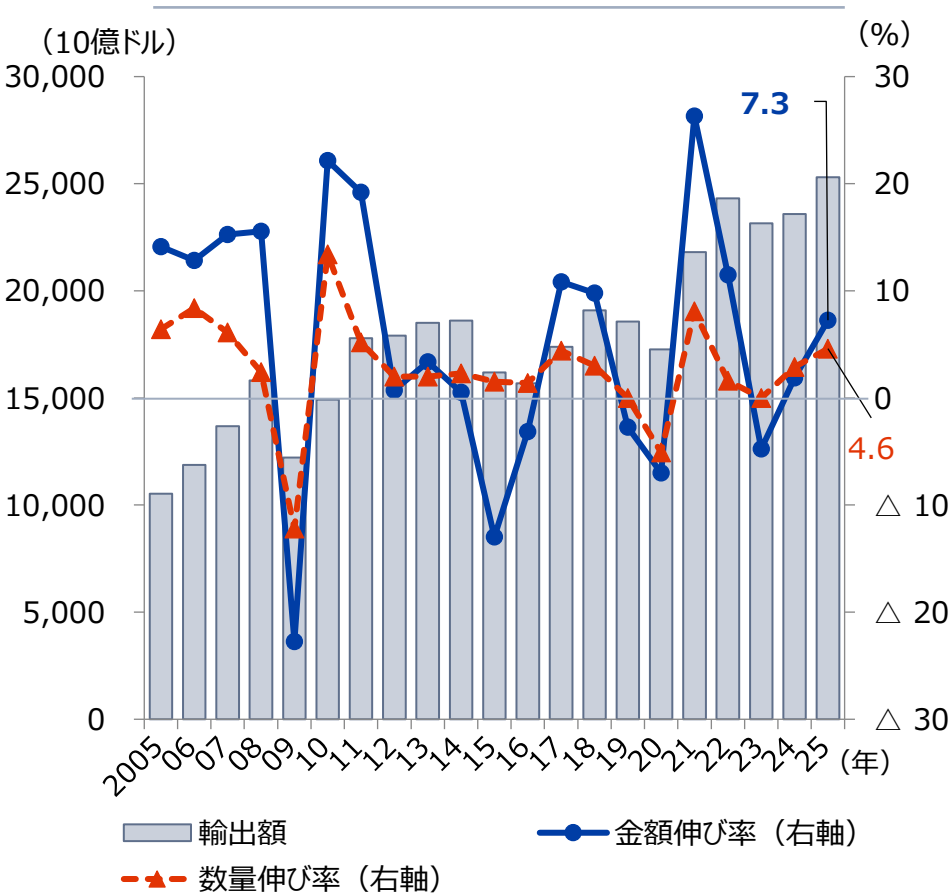


(注) ①WUIは、英エコノミスト・インテリジェンス・ユニット (EIU) の国別報告書における「不確実性」または類する単語の出現頻度に基づき算出。②米国の貿易政策不確実性指数は、米国主要経済紙7紙の自動テキスト検索により算出。貿易政策の不確実性に関する記事の月間頻度 (全記事数に対する割合) を集計。
(出所) Ahir, H, N Bloom, and D Furceri "World Uncertainty Index", NBER Working Paper, 2022, Caldara, Dario, Matteo Iacoviello, Patrick Molligo, Andrea Prestipino, and Andrea Raffo "The Economic Effects of Trade Policy Uncertainty", Journal of Monetary Economics, 2020から作成
Copyright © 2026 JETRO. All rights reserved.
ジェトロ作成。無断転載・転用を禁ず

2 | 世界貿易、リスク直面下で金額・数量ともに前年上回る伸び

- 2025年の世界貿易（財貿易、名目輸出額ベース、ジェトロ推計値）は、**前年比7.3%増の25兆2,988億ドル**と5年連続で20兆ドル超。金額と数量ともに、前年を上回る伸びで拡大を続け、過去最大に到達した。
- **デジタル関連財の好調**に加え、米国の追加関税導入前の**駆け込み輸出（フロントローディング）**や**サプライチェーン再編**などが、世界貿易の拡大を下支えした。

世界の財貿易の推移（輸出ベース）



世界貿易関連指標

	(単位：伸び率および変化率は%)		
	2023年	2024年	2025年
世界の貿易（輸出）（億ドル）	231,560	235,871	252,988
金額（名目）伸び率	△ 4.8	1.9	7.3
数量（実質）伸び率	0.0	2.9	4.6
価格（単価）伸び率	△ 4.8	△ 1.0	2.4
鉱工業生産指数伸び率（OECD）	△ 0.7	△ 1.0	1.0
燃料価格指数伸び率	△ 36.7	△ 5.3	△ 9.1
原油価格伸び率	△ 16.4	△ 1.8	△ 14.4
天然ガス価格指数伸び率	△ 62.8	△ 13.6	15.2
金属価格指数伸び率	△ 2.8	△ 1.9	2.1
鉄鉱石価格伸び率	△ 0.3	△ 7.7	△ 6.6
食料・飲料価格指数伸び率	△ 6.1	1.6	△ 2.1
ドルの名目実効為替レート変化率	0.9	1.6	△ 1.7

（注）①名目金額、伸び率はジェトロ推計値（推計手法は本文・資料「付注2」を参照）。②数量伸び率はWTOの数値。③価格伸び率は「名目金額／実質貿易指数」の伸び率。④資源価格伸び率は年平均の伸び率。原油価格は、ドバイ、北海ブレント、WTIの平均。天然ガス価格は欧州、日本、米国の価格指数。鉄鉱石価格はCFR中国天津港価格。

（出所）ジェトロ推計値（Global Trade Atlasから作成）、OECDデータ（2026年4月版）、IMF “IFS”、IMF “PCPS”、WTOから作成

3 | アジアはじめ広範に輸出が加速、輸出先の多角化も進む

- 最大の輸出国である中国は過去最多額を輸出。米国向け輸出が約2割落ち込んだものの、それ以外の国・地域に輸出を多角化。ASEANなど中国以外のアジアでは、関税措置前の駆け込み効果が持続。また、台湾はAI需要を背景に急伸。
- 先進国は前年比8.0 %増の14兆7,276億ドル、新興・途上国は6.2%増の10兆5,712億ドルだった。世界貿易の拡大局面で、全体の6割を占める先進国の伸びが新興・途上国を上回るのは、2014年以来11年ぶり。

世界の国・地域別貿易（2025年）

（単位：億ドル、%）

国・地域名	輸出				輸入			
	金額	構成比	伸び率	寄与度	金額	構成比	伸び率	寄与度
北米	27,356	10.8	4.0	0.4	39,805	15.4	4.0	0.6
米国	21,785	8.6	5.7	0.5	34,157	13.2	4.6	0.6
EU	76,459	30.2	6.9	2.1	74,724	28.9	7.3	2.1
ドイツ	17,662	7.0	5.4	0.4	15,399	6.0	8.9	0.5
英国	5,544	2.2	8.1	0.2	9,482	3.7	16.1	0.5
日本	7,376	2.9	4.0	0.1	7,568	2.9	1.3	0.0
北東アジア・ASEAN	80,033	31.6	10.4	3.2	65,684	25.4	7.2	1.8
中国	37,765	14.9	5.6	0.9	25,823	10.0	△ 0.0	△ 0.0
台湾	6,408	2.5	35.1	0.7	4,941	1.9	23.2	0.4
ASEAN6	21,219	8.4	13.0	1.0	20,246	7.8	11.9	0.9
インド	4,450	1.8	0.5	0.0	7,555	2.9	5.3	0.2
中南米	15,063	6.0	6.7	0.4	14,906	5.8	6.2	0.4
中東	11,455	4.5	2.0	0.1	11,827	4.6	7.9	0.4
アフリカ	5,455	2.2	5.6	0.1	7,158	2.8	12.1	0.3
世界	252,988	100.0	7.3	7.3	258,676	100.0	7.3	7.3
先進国	147,276	58.2	8.0	4.6	157,862	61.0	8.0	4.9
新興・途上国	105,712	41.8	6.2	2.6	100,815	39.0	6.2	2.4

（注）①世界、EU、先進国、新興・途上国、資源輸出国（およびその内訳）はジェトロ推計値。②EUは域内貿易を含む。③ASEAN6は、シンガポール、タイ、マレーシア、ベトナム、インドネシア、フィリピンの6カ国。④北東アジア・ASEANは、中国、香港、韓国、台湾およびASEAN6。⑤先進国の定義はDOTS（IMF）に基づく。世界から先進国を差し引いて新興・途上国とした。（出所）ジェトロ推計値（Global Trade Atlasから作成）から作成

4 | 分断危機下でのグローバルサプライチェーン再構成

- WTOは世界貿易の現況を「**再構成（reconfiguration）**」の時代を迎えており、過去20年で最もバリューチェーン多極化が進んだ状態にあると分析。世界貿易マトリクスでも、生産拠点分散や新興国の存在感向上が並行して進展。
- 中国やASEANなど**アジアからの輸出が拡大し、輸入では米国が強さ**を示す中、**グローバルサウスが市場として台頭**。

世界貿易に対する各国・地域間貿易シェアの変化（2019→2025年）

（単位：％）

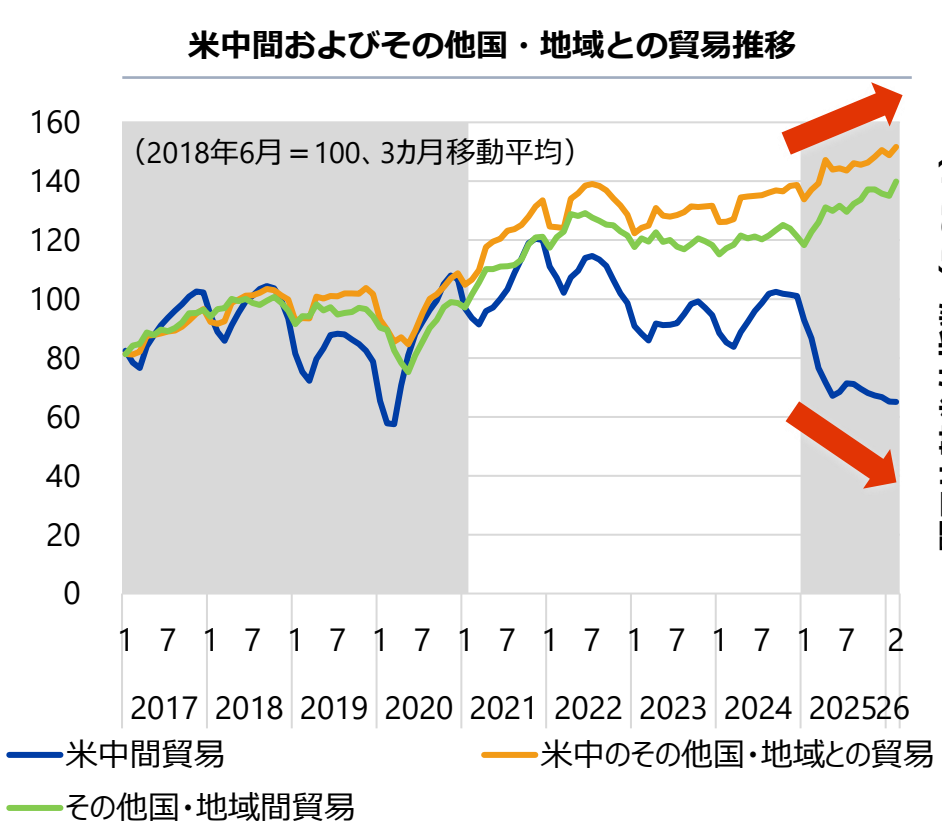
輸出先→ ↓輸出元	世界	アジア				米国	中南米	欧州		先進国	新興・途 上国
		日本	中国	ASEAN	EU						
世界	-	△ 0.4	△ 0.8	△ 0.5	0.6	1.0	0.4	△ 0.7	△ 0.4	△ 0.6	0.6
アジア	2.2	0.6	△ 0.3	△ 0.2	0.7	0.6	0.4	0.4	0.2	0.8	1.5
日本	△ 0.9	△ 0.5	-	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.0	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.5	△ 0.4
中国	1.5	0.5	△ 0.1	-	0.7	△ 0.6	0.3	0.6	0.2	△ 0.7	2.1
ASEAN	1.0	0.5	△ 0.1	0.2	0.0	0.7	0.1	0.1	0.1	1.2	△ 0.2
米国	△ 0.3	△ 0.2	△ 0.1	△ 0.2	0.0	-	△ 0.1	0.4	0.2	△ 0.1	△ 0.2
中南米	0.5	0.1	△ 0.0	0.1	0.0	0.2	0.0	0.0	0.1	0.3	0.1
欧州	△ 2.0	△ 0.4	△ 0.1	△ 0.1	△ 0.1	0.4	△ 0.0	△ 1.8	△ 0.9	△ 1.3	△ 0.7
EU	△ 1.0	△ 0.6	△ 0.1	△ 0.3	△ 0.1	0.2	△ 0.0	△ 0.6	△ 0.1	△ 0.6	△ 0.5
先進国	△ 1.6	△ 1.2	△ 0.4	△ 0.9	0.0	0.6	△ 0.1	△ 0.5	△ 0.2	△ 0.5	△ 1.1
新興・途上国	1.6	0.8	△ 0.4	0.4	0.5	0.4	0.4	△ 0.2	△ 0.2	△ 0.1	1.7

（注）①太字は0.5ポイント以上の変化があった国・地域間。②欧州にはロシアCIS諸国を含む。

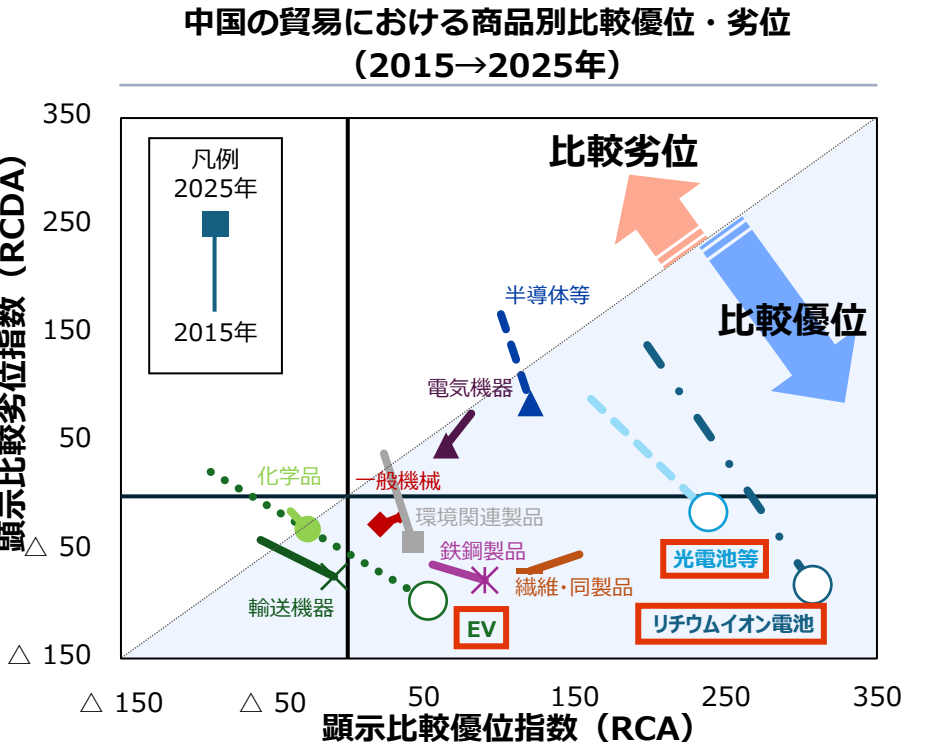
（出所）ジェトロ推計値（Global Trade Atlasから作成）から作成

5 | 米中間の貿易関係が弱体化、中国の輸出はハイテクヘシフト

- 2018～2025年にかけて、米中間貿易の年平均伸び率（6.4%減）は、米国とその他・国地域間の伸び（同5.6%増）を大きく下回った。**両国間貿易関係は著しく弱まり**、2026年以降も、その他地域との乖離は広がる。
- 中国の貿易構造は、従来の労働集約型汎用品から、ハイテク分野へとシフト強める。電気自動車、リチウム・イオン電池、太陽光発電製品から成る**「新三様」**は過去10年間で輸出競争力を大幅に高めた。



（注）①「その他国・地域」は、直近までの貿易統計が取得可能な34カ国・地域から、米国と中国を除く。34カ国・地域の詳細は、本文第I章第1節参照。②貿易額を3ヵ月移動平均により平準化した上で、2018年6月基準で指数化。通商法301条に基づく対中追加関税第1弾とこれに対する中国による対抗措置が発動された2018年7月の直前月を基準とした。③網掛けはトランプ政権下。（出所）Global Trade Atlas（S&P Global）から作成

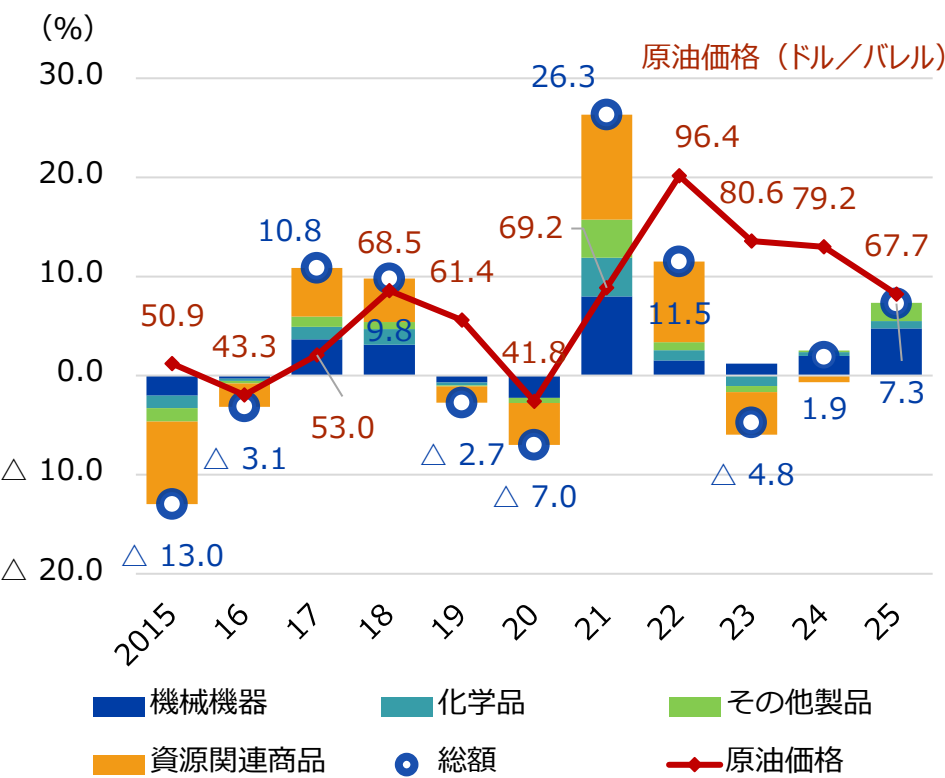


（注）①顕示比較優位指数 (RCA_{ij}) = ((X_{ij}/X_j)/(X_{iw}/X_w)-1)×100、顕示比較劣位指数 (RCDA_{ij}) = ((M_{ij}/M_j)/(M_{iw}/M_w)-1)×100、X(M)_{ij} : j国のi財の輸出 (入)、X(M)_j : j国の総輸出 (入)、X(M)_{iw} : 世界全体のi財の輸出 (入)、X(M)_w : 世界全体の総輸出 (入) ②EVはBEVとPHEVの合計。HSコードが新設された2017年と比較した。③実線は大分類、点線は同分類に含まれる個別品目。④赤枠で示した3品目は「新三様」。⑤環境関連製品はIMFの定義に基づく。（出所）ジェトロ推計値（Global Trade Atlasから作成）から作成
Copyright © 2026 JETRO. All rights reserved.
ジェトロ作成。無断転載・転用を禁ず

6 | 機械が世界貿易下支え、デジタル関連財の好調続く

- 2025年は工業製品が回復し、中でも半導体を中心としたデジタル関連製品の好調が顕著だった一方、鉄鉱石や鉱物性燃料といった一部原料の落ち込みが目立った。資源価格要因よりも、**製造業の実需に支えられ**貿易が拡大した。
- 2026年第1四半期の世界貿易は、前年同期比13.3%増。引き続きデジタル関連財が牽引。WTOは、**2026年の世界の財貿易量の伸びを1.9%**と予測。エネルギー価格が高止まりした場合、伸びは1.4%まで落ち込む可能性も。

世界の財貿易の主要商品群別寄与度



(注) ①輸出額ベース。②商品分類は世界貿易投資報告本文「付注1」参照。
(出所) ジェトロ推計値 (Global Trade Atlasから作成)、IMFから作成

主要34カ国・地域の商品別貿易
(輸出額ベース、2026年第1四半期)

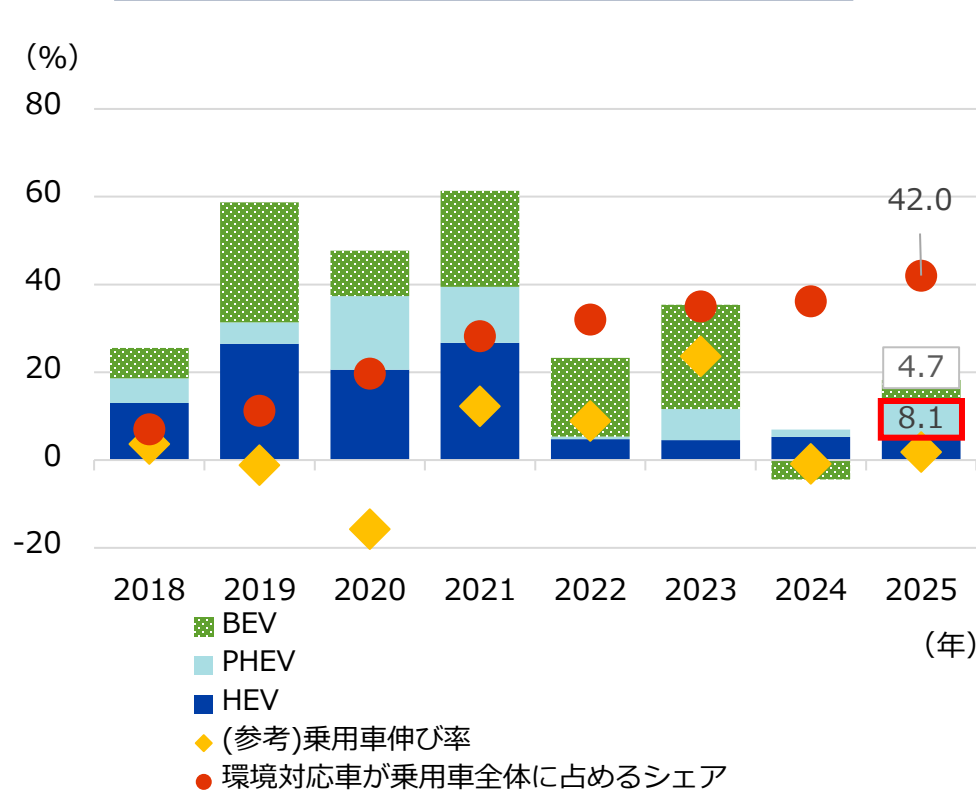
(単位：億ドル、%)				
	世界貿易 カバー率 (25年)	2026年1Q		
		金額	伸び率	寄与度
総額	78.2	52,989	13.3	13.3
機械機器	83.4	24,737	22.1	9.6
一般機械	83.7	7,843	23.5	3.2
コンピューター・周辺機器	74.5	1,983	51.4	1.4
電気機器	84.0	10,054	32.6	5.3
集積回路	95.1	4,074	56.1	3.1
輸送機器	81.2	5,051	8.2	0.8
自動車	78.4	2,473	7.2	0.4
EV	83.1	367	25.2	0.2
化学品	86.9	7,535	△ 2.1	△ 0.3
有機化学品	92.3	1,074	△ 26.3	△ 0.8
鉱物性燃料等*	80.3	5,560	△ 5.6	△ 0.7
石油・同製品*	83.3	4,009	△ 3.5	△ 0.3
卑金属・同製品*	71.7	3,021	8.2	0.5
デジタル関連財	84.1	12,727	37.1	7.4

(注) 34カ国・地域の詳細は、本文第1章第1節参照。*で示した商品は輸入ベース。
(出所) Global Trade Atlas (S&P Global) から作成

7 | 脱炭素貿易、環境対応車の割合増と重要鉱物輸出の偏り

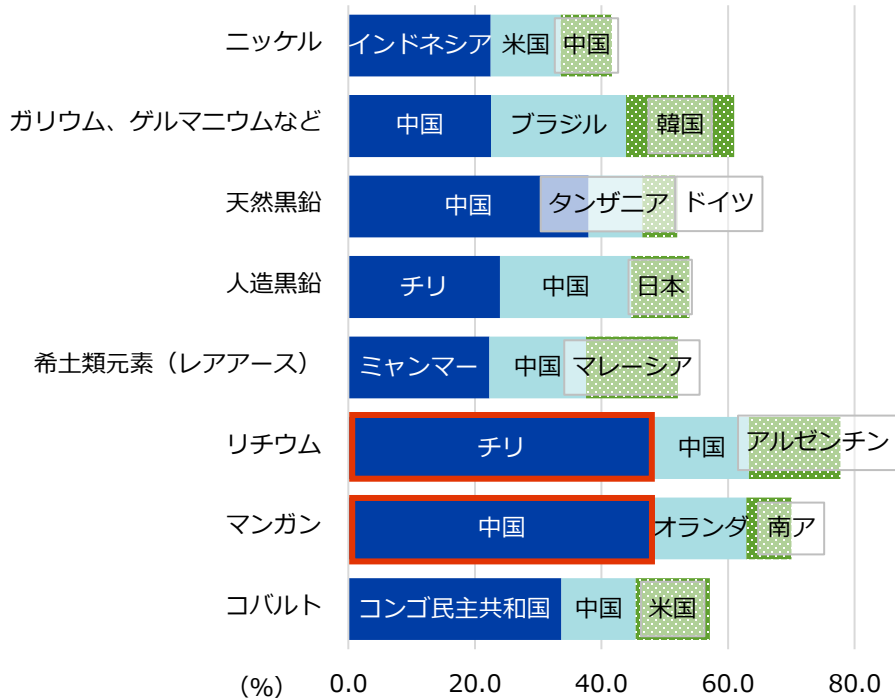
- 2025年の世界の乗用車輸出に占める**環境対応車（HEV、PHEV、BEVの合計）の割合は過去最高の42.0%**。環境対応車の伸びに対する寄与度はPHEV（8.1%）が高く、BEVも前年のマイナスからプラス4.7%に回復した。
- 再エネ分野などで不可欠な**重要鉱物**（UNCTADの定義に基づく）は**少数国に輸出が集中**。2025年の主な重要鉱物の輸出総額に占める最大輸出国のシェアは、マンガン（中国、48.5%）、リチウム（チリ、48.3%）などが特に大きい。

環境対応車の品目別寄与度および
環境対応車が乗用車の輸出に占める割合



(注) ①輸出額ベース。②環境対応車はHEV、PHEV、BEVの合計。
(出所) ジェトロ推計値 (Global Trade Atlasから作成) から作成

主な重要鉱物の輸出総額に占める
上位3カ国のシェア（2025年）



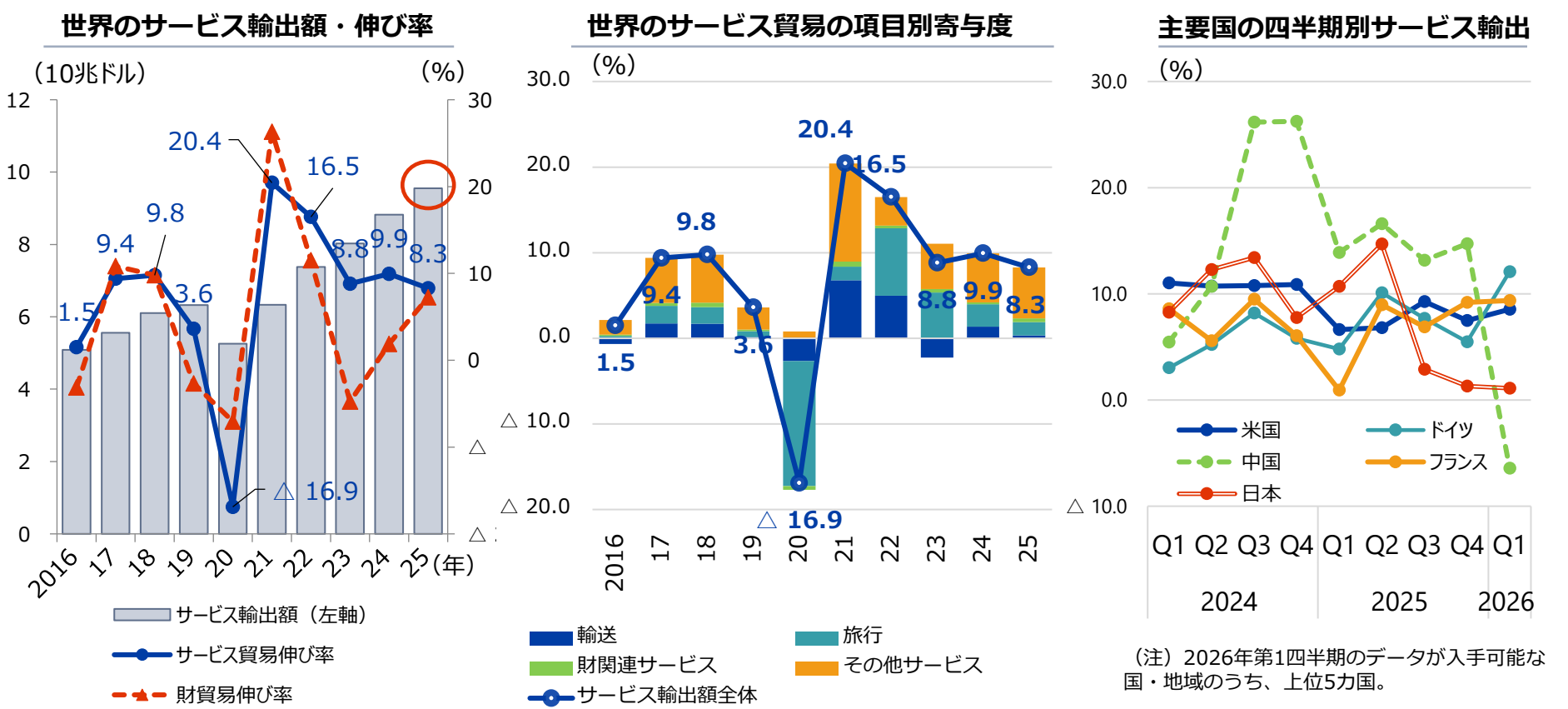
(注) ①ジェトロ推計値 (Global Trade Atlasから作成) から作成。②重要鉱物の定義は、UNCTADの定義に基づく。③「ニッケル」はニッケル・同製品を指す。
(出所) ジェトロ推計値 (Global Trade Atlasから作成) から作成

講演1：本日の内容

1. 変容する世界貿易、リスクが招く構造転換
2. サービス貿易、デジタル貿易にもAI変革の波
3. ものづくりの上流分野に日本の強み
4. まとめ

1 | サービス貿易は初の9兆ドル越えで過去最高更新

- 2025年の世界のサービス貿易（輸出額ベース）は、前年比8.3%増の9兆5,554億ドルで、**初めて9兆ドルを突破**。
- 「旅行」「その他サービス」「財関連サービス」がいずれも過去最高。全体の6割を占める「その他サービス」の中でも、**コンピューターサービスが3年連続2桁成長**。企業によるAI活用進展で、計算能力やデータ処理、ソフトウェア開発への需要が増加。
- 2026年第1四半期も、最大の輸出国である米国が前年同期比8.5%増で堅調。中国は「輸送」のマイナスが押し下げ。

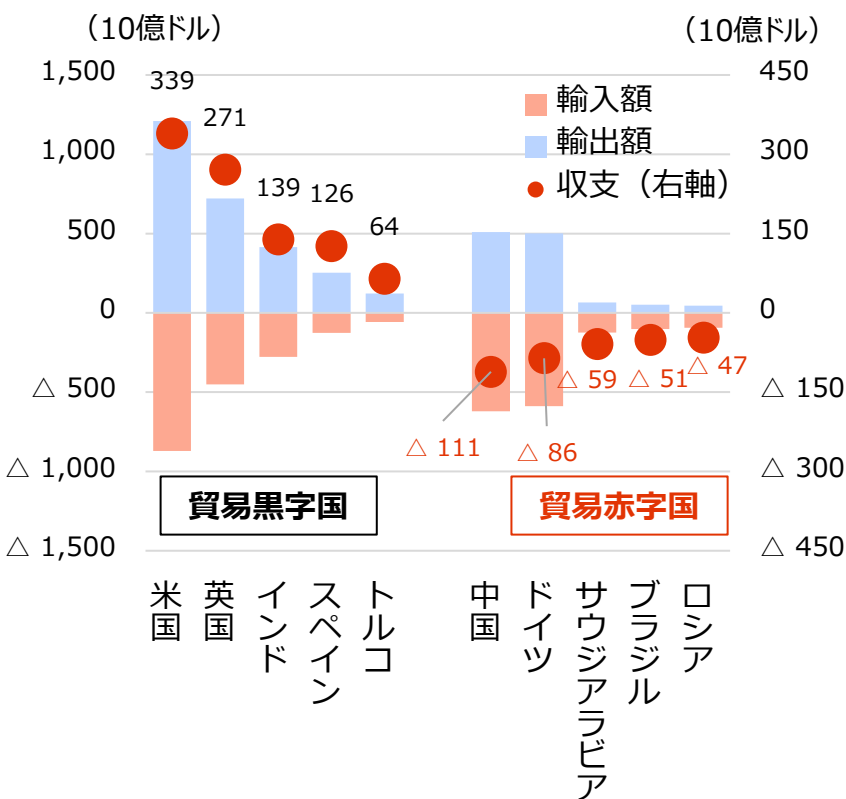


(注) 全図表とも商業サービスのみが対象。
(出所) 全図表ともWTOから作成

2 | サービス輸出大国は黒字額でも上位、貿易構造は固定

- サービス貿易の収支では、**米国、英国、インドなどが黒字を稼ぐ**。デジタル提供型サービス（※）やインバウンドに強み。
※コンピューターネットワークを通じ国境を越えて取引されるサービス。専門サービス、音楽やビデオのストリーミング、オンラインゲーム、遠隔教育など。
- 地政学的要因の影響を受けづらいことから、**財貿易のような構造変化は限定的**。複数地域にとって欧州が最大市場。

世界のサービス収支黒字・赤字上位国（2025年）



（注）①商業サービスのみ。②四半期データを基にした推計値。③「収支」は輸出額から輸入額を差し引いて算出。
（出所）WTOから作成

各地域のサービス輸出シェア（2024年時点）

（単位：％）

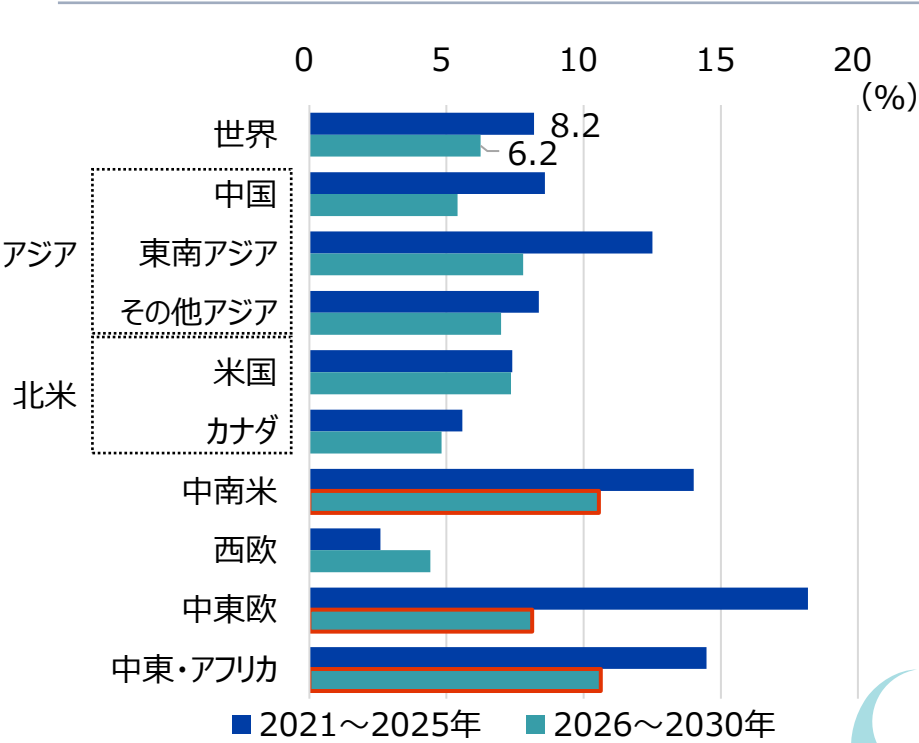
→輸出先 ↓輸出元	アフリカ	アジア	ロシア・CIS	欧州	中東	北米	中南米
アフリカ	6.8	22.2	1.7	50.8	6.6	9.2	2.7
アジア	2.6	51.0	1.2	22.9	4.5	15.4	2.4
ロシア・CIS	2.5	27.5	15.6	38.2	6.7	6.9	2.5
欧州	2.6	13.7	1.6	61.8	4.0	13.7	2.6
中東	4.0	27.2	2.3	37.5	13.2	12.8	3.0
北米	1.7	25.9	0.5	40.7	2.6	21.8	6.8
中南米	2.6	20.0	1.1	28.9	3.8	31.3	12.3

（注）①商業サービスのみ。②青網掛けは2014年から2024年にかけて1ポイント以上増、赤塗りつぶしは同程度の減を表す。
（出所）WTO・OECD “Balanced Trade in Services(BaTIS)”から作成

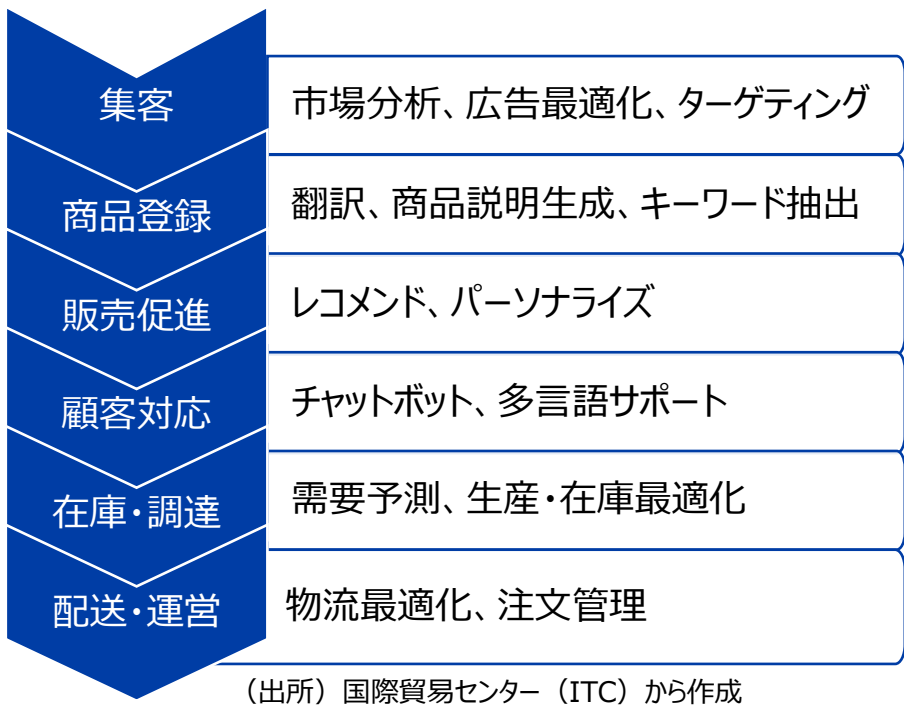
3 | デジタル貿易を下支えするEC、AI活用も進む

- 国際貿易センター（ITC）によると、2020～2024年のデジタル貿易額の年平均成長率（CAGR）は12.1%で、世界貿易全体のCAGR（9.7%）を上回った。**越境電子商取引（EC）市場の攻勢がデジタル貿易の成長を牽引**している。
- 2025年の世界のEC小売市場規模は前年比8.4%増の6兆4,657億ドル。2026～2030年もCAGR6.2%の予測で、**中東欧やグローバルサウス諸国での拡大**が見込まれる。**EC分野でもAI活用が進み、業務プロセスや顧客接点のあり方が変化**。

EC小売市場規模の年平均成長率
(2021～2025年、2026～2030年)



ECバリューチェーンとAI活用の例



(出所) 国際貿易センター（ITC）から作成

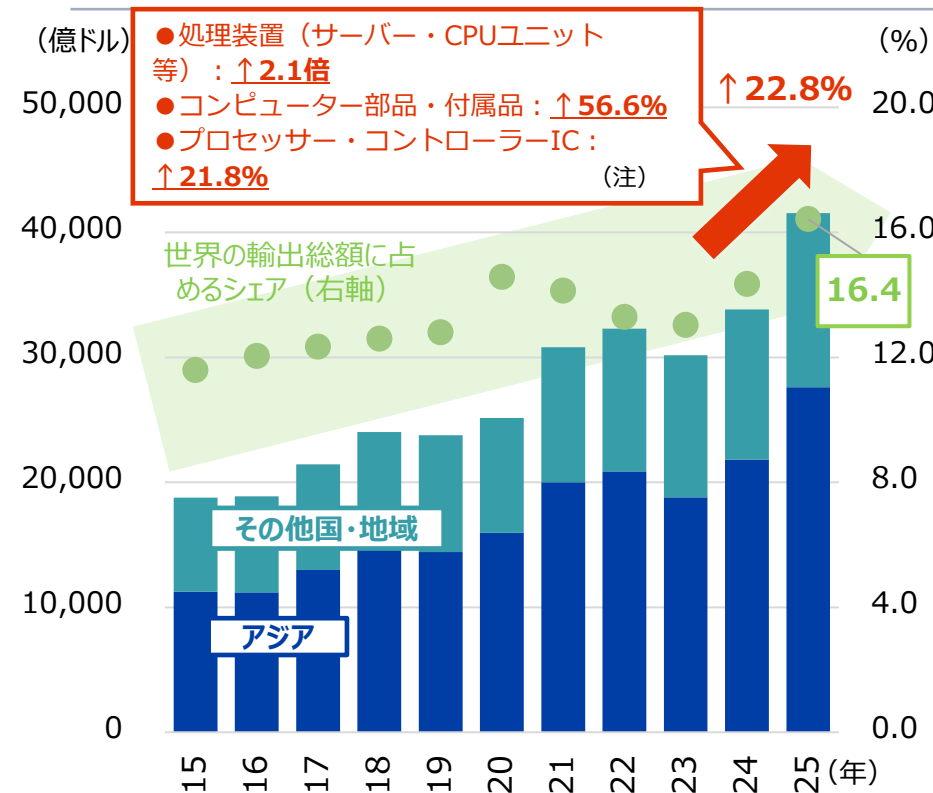
(注) ①市場規模の大きい中国および米国は国単位で掲載。
②eMarketerの推計に基づく。
(出所) eMarketerから作成

「エージェンティックコマース」...AIエージェントが利用者の嗜好や条件を踏まえ、商品検索から比較、購入までを自律的に支援・代行するようになると見込まれる。

4 | 新たな成長分野として存在感高めるAI関連財

- ジェトロの推計によれば、2025年のAI関連財（※）輸出は**前年比22.8%増の4兆1,547億ドルで過去最高**。世界の**輸出総額に占めるシェアは16.4%**、2025年の伸びに対する寄与率は45.1%に上った。
※WTOの定義に基づく、シリカやジルコニアなどの「原材料・加工済み化学品」、半導体生産に用いられる「中間材料」、PCや半導体といった「機器」、の3つ。
- 半導体やサーバー関連機器などの集積により、2019年から2025年にかけて、特に**アジア域内でバリューチェーンが深化**。アジアの対世界シェアは66.4%と、2019年時点から5.8ポイント上昇した。アジア域内輸出のシェアも2.1ポイント増加した。

世界のAI関連財貿易額の推移（輸出額ベース）



(注) 品目別年計値が取得可能な58カ国・地域の輸出統計を基に、2025年の寄与度上位3品目（HSコード6桁ベース）を抽出し、前年比伸び率を表示。
(出所) ジェトロ推計値（Global Trade Atlasから作成）から作成

AI関連財の貿易マトリクス
(世界の輸出額におけるシェア、2025年)

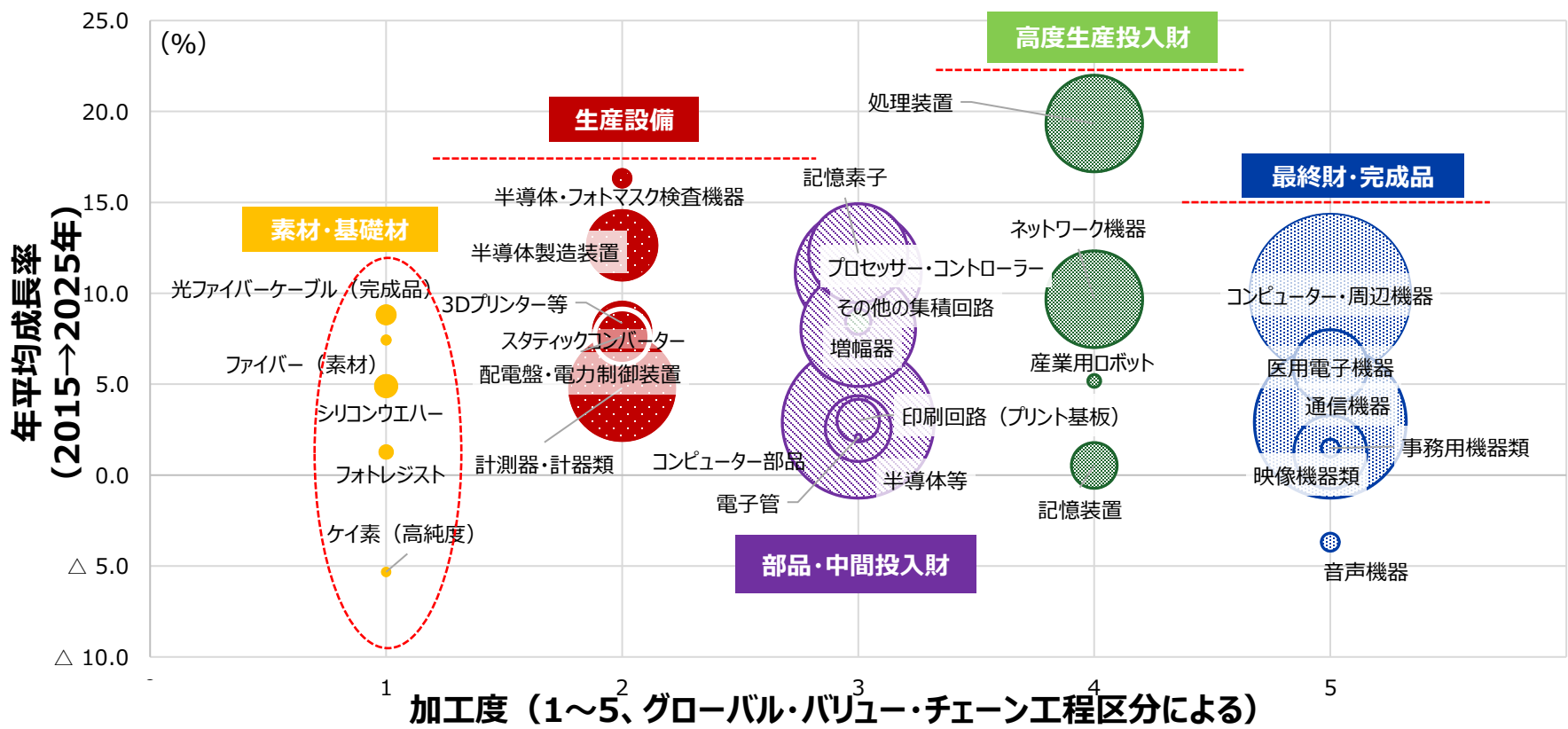
		(単位：%)						
輸出先→ ↓輸出元		世界	アジア	中国	台湾	ASEAN	米国	欧州
								EU
世界		100.0	52.5	15.8	6.1	13.3	17.0	20.5
アジア		66.4	45.1	13.6	4.8	11.5	11.4	5.9
	中国	16.9	10.4	-	1.0	3.2	1.6	2.8
	台湾	11.5	6.4	1.6	-	2.2	3.9	0.5
	ASEAN	18.6	12.0	2.3	1.8	3.4	4.2	1.5
	シンガポール	6.4	5.2	0.8	1.0	1.5	0.6	0.3
	ベトナム	5.3	2.6	0.7	0.2	0.3	2.0	0.5
	マレーシア	4.1	2.8	0.5	0.4	1.2	0.8	0.3
米国		7.7	2.8	0.5	0.7	0.9	-	1.3
欧州		19.0	3.1	1.2	0.4	0.6	1.5	12.4
	EU	17.3	2.8	1.1	0.3	0.6	1.3	11.4
	ドイツ	4.6	1.0	0.4	0.1	0.2	0.4	2.8

(注) ①AI関連財は、WTOの定義に基づく約100品目を集計（HSコード6桁ベース）。②青網掛けは2019年から2025年にかけて1ポイント以上増、赤塗りつぶしは同程度の減を表す。
(出所) ジェトロ推計値（Global Trade Atlasから作成）、WTOから作成
Copyright © 2026 JETRO. All rights reserved.
ジェトロ作成。無断転載・転用を禁ず

5 | 生産設備や中間財がデジタル関連財貿易を主導

- サプライチェーン再編の中で、生産能力や中間工程への投資拡大に呼応し、生産装置や中間財の輸出が全体を牽引。
- この10年の輸出規模や年平均成長率で見ると、最終財・完成品は輸出規模こそ大きいですが、伸び率は相対的に落ち着いた水準。一方、**生産設備や部品・中間投入財が相対的に高い成長率**を示している。

デジタル関連財の工程別成長構造の変化（2015→2025年）



（注）横軸は工程区分、縦軸は世界貿易額の年平均成長率、バブルサイズは2025年の輸出額。加工度は、各品目の機能や工程段階の違いを踏まえ、HSコードに基づき5段階で分類した。うち、高度生産投入財は、生産工程に投入される財のうち、高度な情報処理・制御・システム機能を有し、GVC上で付加価値創出に重要な役割を果たすものを、分析上便宜的に総称したもの。デジタル関連財の定義は、「世界貿易投資報告」各年盤付注1参照。
（出所）ジェトロ推計値（Global Trade Atlasから作成）、UNCTAD、RIETI-TIDから作成

Copyright © 2026 JETRO. All rights reserved. ジェトロ作成。無断転載・転用を禁ず

講演1：本日の内容

1. 変容する世界貿易、リスクが招く構造転換
2. サービス貿易、デジタル貿易にもAI変革の波
3. **ものづくりの上流分野に日本の強み**
4. まとめ

1 | 2025年の日本の貿易は上向くも、先行きは不透明

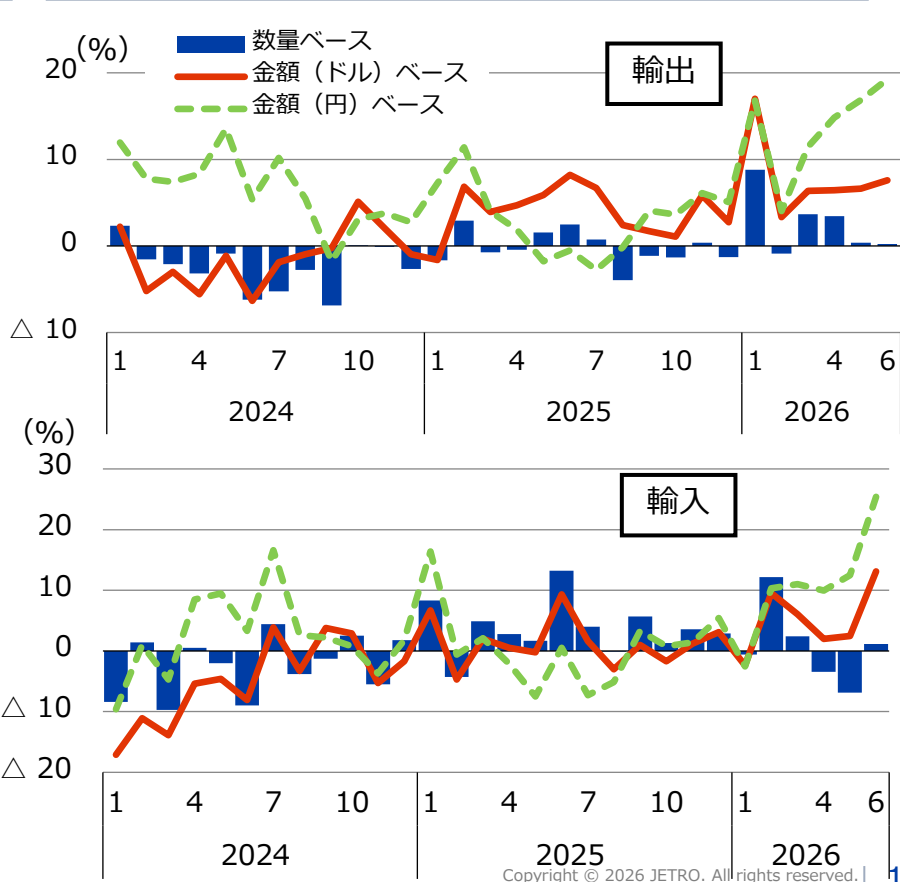
- 2025年の日本の貿易（通関ベース）は、輸出が前年比4.0%増の7,376億ドル、輸入が1.3%増の7,568億ドル。輸出は4年ぶり、輸入は3年ぶりに増加に転ずる。貿易赤字は3年連続で縮小。
- 輸出、輸入とも上向きの動きを見せるも、足元では中東情勢が不安定さを増し、先行き不透明感が強まる。また2026年に入り、円安が進んだことから、ドルベースと円ベースの伸びの乖離が強まる。

日本の貿易

	2023年	2024年	2025年	2026年 1～6月
輸出総額 (伸び率)	719,086 △ 4.3	708,961 △ 1.4	737,605 4.0	384,465 7.6
輸入総額 (伸び率)	788,896 △ 12.9	747,072 △ 5.3	756,755 1.3	390,974 5.0
貿易収支 (前年同期差)	△ 69,810 84,033	△ 38,110 31,700	△ 19,150 18,960	△ 6,509 8,684
輸出数量指数 (伸び率)	105.7 △ 3.9	102.9 △ 2.6	102.7 △ 0.2	103.4 2.5
輸入数量指数 (伸び率)	99.3 △ 4.9	96.8 △ 2.5	100.3 3.6	98.9 0.6

(両図表とも) (注) ①円建て公表額を基にジェトロがドル換算。
②数量指数は2020年基準。
(出所)「貿易統計」(財務省)、「外国為替相場」(日本銀行) から作成

日本の輸出入（金額、数量）の前年同期比変化率



2 | 日本が素材や精密な製造装置などで世界市場をリード

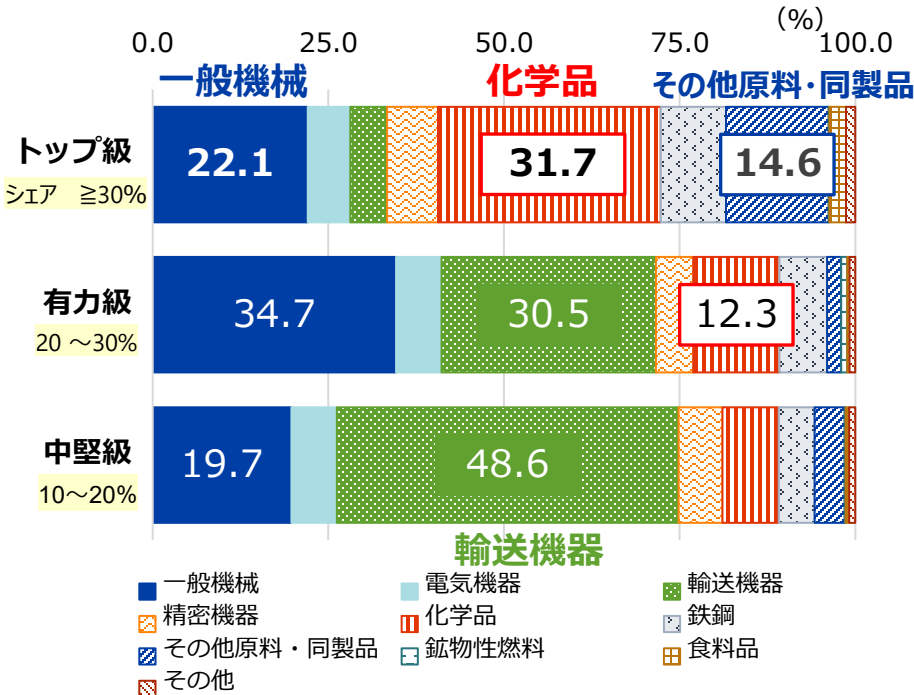
- 2025年の日本の商品別輸出をみると、自動車は最大の輸出先である米国向けの関税等の影響による減少が響く。半導体関連では、台湾向けの集積回路などが伸び、半導体等電子部品類が増加、また半導体製造機器も増加した。
- 世界市場をリードする日本の輸出商品は、製造業を川上から支える素材や精密な製造装置などが多い。世界貿易シェアがトップ級の商品構成は、化学品（31.7%）、一般機械（22.1%）、その他原料・同製品（14.6%）など。

日本の主要商品別輸出

(100万ドル、%)						
	2025年	前年比	寄与度	2026年 1～6月	前年 同期比	寄与度
総輸出	737,605	4.0	4.0	384,465	7.6	7.6
一般機械	130,589	3.9	0.7	65,333	0.6	0.1
半導体製造機器	30,409	2.4	0.1	15,088	△ 1.8	△ 0.1
電気機器	106,244	5.2	0.7	58,589	18.1	2.5
半導体等 電子部品類	43,994	9.7	0.5	26,143	32.1	1.8
輸送機器	162,756	△ 0.1	△ 0.0	81,039	△ 0.3	△ 0.1
自動車	117,450	△ 0.4	△ 0.1	58,611	0.4	0.1
精密機器	37,319	1.4	0.1	19,638	7.8	0.4
化学品	97,107	2.4	0.3	49,171	0.5	0.1
鉄鋼	33,799	△ 7.4	△ 0.4	15,856	△ 7.5	△ 0.4
食料品	9,209	17.3	0.2	4,621	5.7	0.1

(出所)「Global Trade Atlas」(S&P Global) から作成

日本が強みを持つ輸出商品の構成（2023～2025年）



(注) ① HS6桁レベル。輸出額ベース。商品別世界輸出額（2023～2025年平均）が100万ドル以上、かつ日本の輸出実績がある品目が対象（5,073品目）。② 商品分類は資料編付注1参照。ただし食料品はHS01～24、その他原料・同製品は鉄鋼を除くものとする。③ 世界輸出に占める日本のシェアの比率により各グループに区分。トップ級：世界シェア30%以上、有力級：20%～30%未満、中堅級：10%～20%未満。④ 各グループの輸出合計額に対する商品分類ごとの構成比を示している。

(出所)「Trade Map」(ITC) から作成

3 | 日本の輸入は回復基調も地域別に明暗

- 2025年も資源価格下落の影響が続き、資源国からの輸入減少続く。対中輸入はスマホ、パソコン等が伸び、3年ぶりに前年比増加。
- 2026年2月末以降の中東情勢の混乱により、原油など鉱物性燃料の主要な供給元が集中する中東からの供給ルート混乱により、2026年上半期の原油輸入が急減するなど、不安定な状況が続いている。

日本の主要国・地域別輸入

(100万ドル、%)						
	2025年	前年比	寄与度	2026年 1～6月	前年 同期比	寄与度
総輸入	756,755	1.3	1.3	390,974	5.0	5.0
米国	86,297	2.7	0.3	47,887	15.6	1.7
EU	85,263	7.6	0.8	41,820	△ 0.9	△ 0.1
中国	178,257	6.2	1.4	94,249	9.6	2.2
台湾	33,399	9.1	0.4	20,610	29.6	1.3
ASEAN	119,448	2.1	0.3	62,984	7.6	1.2
ベトナム	30,386	13.1	0.5	16,631	13.0	0.5
タイ	25,483	2.9	0.1	13,821	10.4	0.4
インドネシア	20,236	△ 13.9	△ 0.4	9,391	△ 3.1	△ 0.1
マレーシア	19,500	1.9	0.1	10,536	8.3	0.2
オーストラリア	45,369	△ 14.6	△ 1.0	22,567	△ 0.4	0.0
中東	76,939	△ 10.5	△ 1.2	28,572	△ 27.8	△ 3.0

(注) ①円建て公表額を基にジェトロがドル換算。②2025年のASEANは東ティモールを除く10カ国ベースで算出。
(出所)「貿易統計」(財務省)、「外国為替相場」(日本銀行) から作成

日本の主要商品別輸入

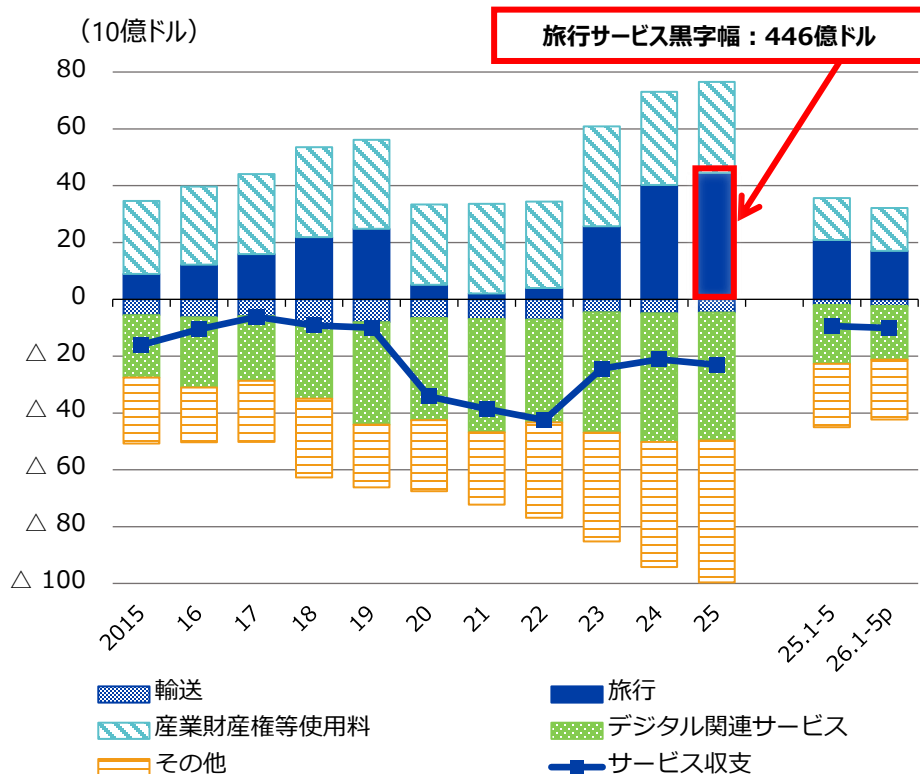
(100万ドル、%)						
	2025年	前年比	寄与度	2026年 1～6月	前年 同期比	寄与度
総輸入	756,755	1.3	1.3	390,974	5.0	5.0
鉱物性燃料	147,644	△ 12.3	△ 2.8	69,330	△ 8.9	△ 1.8
原油	64,242	△ 10.5	△ 1.0	28,083	△ 14.6	△ 1.3
液化天然ガス	38,024	△ 7.8	△ 0.4	17,520	△ 11.3	△ 0.6
石炭	22,286	△ 25.6	△ 1.0	11,313	4.5	0.1
一般機械	82,970	14.1	1.4	43,538	3.9	0.4
コンピューター・ 周辺機器類	28,921	17.2	0.6	15,681	8.4	0.3
電気機器	114,089	7.5	1.1	64,690	19.1	2.8
通信機器	31,242	12.4	0.5	15,893	12.7	0.5
半導体等 電子部品類	27,802	3.4	0.1	18,295	37.4	1.3
輸送機器	31,620	8.2	0.3	15,342	1.0	0.0
化学品	92,799	4.8	0.6	48,544	4.0	0.5
食料品	68,982	5.2	0.5	33,623	△ 1.6	△ 0.1

(注) 円建て公表額を基にジェトロがドル換算。
(出所)「Global Trade Atlas」(S&P Global) から作成
Copyright © 2026 JETRO. All rights reserved.
ジェトロ作成。無断転載・転用を禁ず

4 | 旅行サービス黒字幅、拡大続く

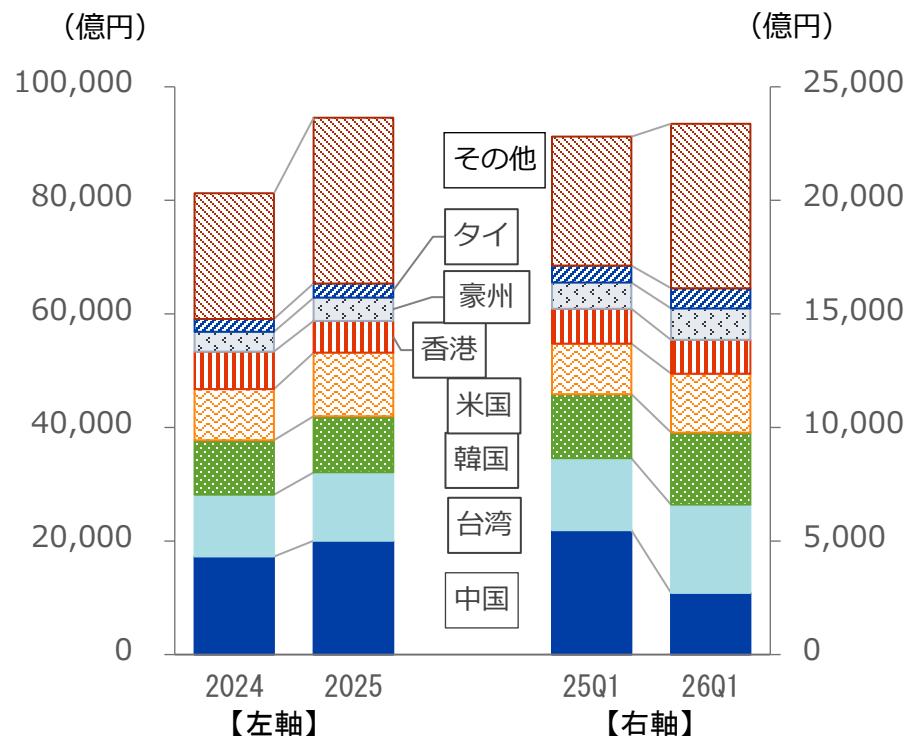
- 2025年の日本のサービス貿易収支は231億ドルの赤字となり、3年ぶりに赤字幅が拡大した。近年のサービス貿易の稼ぎ頭である旅行サービスの黒字幅は446億ドルと、3年連続で過去最高額を更新した。
- 足元では中国からの訪日外客数の大幅減が響くものの、2026年Q1のインバウンド消費額は2兆3,378億円と前年同期から2.5%増加した。中国が前年同期からほぼ半減したものの、その他の国・地域が伸び、底堅い動きを示した。

日本のサービス貿易収支



(注) ①円建て公表値をジェトロがドル換算。②p は速報値。③デジタル関連サービス：著作権等使用料、通信、コンピューター、情報、専門・経営コンサルティングの合計 ④その他：委託加工、維持修理、建設、保険・年金、金融、研究開発、技術・貿易関連、個人・文化・娯楽、公的サービスの合計。(出所)「国際収支統計」(財務省、日本銀行)から作成

訪日外国人旅行消費額（インバウンド消費額）の推移



(注) 2026年Q1は一次速報値。
(出所)「インバウンド消費動向調査」(観光庁)から作成。

2026年版「ジェトロ世界貿易投資報告」第1章のまとめ

1 変容する世界貿易、リスクが招く構造転換

- 世界貿易は、関税引き上げに代表されるリスクにさらされながらも、**AIやデジタル関連需要、関税措置前の前倒し輸出入**に下支えされ、拡大を維持。2026年に入っても伸びが持続。
- 近年、米中間の貿易関係は著しく弱まり、**両国では貿易相手国・地域の多角化が進行**。米中関係の後退もきっかけにサプライチェーン再編が進展。生産拠点の分散や、グローバルサウスの台頭を伴う多極的な貿易構造への転換が進んでいる。

2 サービス貿易、デジタル貿易にもAI変革の波

- 世界のサービス貿易とデジタル貿易は**過去最高水準へ拡大**し、コンピューターサービスやEC市場の成長を支えるAIの活用が加速。
- 2025年の**AI関連財貿易額は前年比22.8%増で過去最高**。**アジア域内でバリューチェーンが深化**するなど、生産拠点の分散や、新興・途上国の台頭といった質的な変化が加速するカタチで、世界貿易の構造転換が進んでいる。

3 ものづくりの上流分野に日本の強み

- 日本の貿易も2025年に続き、2026年も輸出入ともに上向きも、不安定な中東情勢による先行き不透明感続く。輸入では**調達先の分散**が加速。
- 日本の輸出商品は、**製造業を川上から支える素材や精密な製造装置などで世界市場をリード**。デジタル・AI投資の拡大やグローバルサウスの成長を取り込むことが今後の成長機会へ。

2026年版「ジェトロ世界貿易投資報告」 ウェビナー

日本貿易振興機構（ジェトロ）

調査部 国際経済課



03-3582-5177



ori@jetro.go.jp



〒107-6006

東京都港区赤坂1-12-32 アーク森ビル6階

■ ご注意

【注】単位未満を含むため、末尾が合わない場合があります。特記しない限り、本資料の記述は2026年6月末時点のものになります。

【免責条項】本レポートで提供している情報は、ご利用される方のご判断・責任においてご使用下さい。ジェトロでは、できるだけ正確な情報の提供を心掛けておりますが、本レポートで提供した内容に関連して、ご利用される方が不利益等を被る事態が生じたとしても、ジェトロは一切の責任を負いかねますので、ご了承下さい。